

在外公館でのレセプション等における日本産酒類の活用 【平成29年度予算案：133百万円（84百万円）】

在外公館では、任国要人との会食で提供したり、天皇誕生日祝賀レセプション等の大規模行事の際に日本酒で乾杯する等、**日本産酒類を積極的にアピール**しており、行事参加者から高い評価を得ている。東日本大震災後は、特に被災地の日本酒・日本ワインを積極的に活用。

外務省では、在外公館からの調達希望を受けてコンクール受賞酒等の日本産酒類を調達・送付。平成23年からこれまで**約75,400本の日本酒**を、また、平成20年から**約31,900本の日本ワイン**を送付。（平成27年度購送数は日本酒約18,800本、日本ワイン約6,100本。）



初のアフリカ開催となったTICAD（アフリカ開発会議）の日本政府主催レセプションにおいて、日本酒で乾杯
（在ケニア大使館、平成28年8月27日）



ドゥテルテ・フィリピン大統領も出席した天皇誕生日祝賀レセプションにおいて日本酒で乾杯
（在ダバオ領事事務所、平成28年12月1日）



天皇誕生日祝賀レセプションで日本酒紹介ブースを設置し、館員が日本酒を紹介（在リオデジャネイロ総領事館、平成28年12月6日）

日本ブランド発信事業【平成29年度予算案：24百万円（48百万円）】

様々な分野の専門家を個別に海外に派遣し、講演会及びワークショップ等を実施
日本の多様な魅力（強み、価値観、伝統、現代日本を形作る文化的背景等）を海外に発信
--の 日本全体のブランド向上に資する

聴衆と**価値観や体験を共有**し、日本の魅力に対する関心や共感、日本文化に対する理解を促進。

日本の良さに共感する外国人による**再発信を促し、波及効果の拡大**を目指す。

将来的には、日本の製品の海外における消費・流通が拡大し**海外ビジネス展開**に繋がること、**国際交流の端緒**となること、日本への**観光客が増加**することなども視野に入れる。



アラブ首長国連邦、サウジアラビア
西陣織 **-More than Textile-**
(平成27年11月)

西陣織と、ファッションや高級インテリア、芸術作品とのコラボを進める細尾真孝氏を中東に派遣。ファッション・スクールでの講演や王族とのネットワーキングを行った。最先端のバイオテクノロジーを取り入れた西陣織の新たな可能性も紹介した。



ペルー、チリ
日本のファッションデザイン
(平成28年8月)

BANSANのデザイナー・伴真由子氏を現地の交流希望を踏まえ派遣、着物など日本伝統デザインとものづくり技術を体現したファッションを発信、現地デザインとの融合ワークショップを実施。著名デザイナーとの共同制作・相互交流創設が期待。



豪州（シドニー・メルボルン）
サブカルチャー **-コスプレ-**
(平成28年8月)

コスプレ造形師のGoldy Takahiro Sakai氏を派遣、日本のサブカルチャーとものづくりを講演会・甲冑制作ワークショップで発信。ポップカルチャーイベント「Smash」参加、サン・ヘラルド、エイジ等有力誌が記事掲載、SBSテレビが放映。

「Web Japan」（<http://web-japan.org>）とは

- ・日本の社会、文化、科学技術、流行など、日本の様々な魅力を英文（一部多言語）で発信するウェブサイト。
- ・下記の6つのサブサイトからなる。
- ・メインターゲットは海外の一般層（特に若年層）
- ・日本への関心を惹起し、親日感情の醸成、親日派・知日派の育成を目的とする。
- ・平成27年度のアクセス数は1460万ページビューを獲得。Google等の検索エンジンでも上位表示される。



「Web Japan」 6つの主要サブサイト

1. Trends in Japan



概要：最新の日本事情（ファッション、科学技術、ライフスタイル、ポップカルチャー、フード&トラベル）の紹介。

言語：英語のみ

2. Kids Web Japan



概要：海外の小中学生を対象に我が国を紹介。日本語学習者用に日本語版もあり。

言語：英・日

3. Japan Video Topics



概要：日本紹介短編動画集（例年世界100局前後のテレビ局でテレビ放映も実施）。

言語：7言語（英・仏・西・ア・中・葡・日）

4. Niponica



概要：年3回発行する日本紹介雑誌「にぽにか」のWeb版。PDF形式でも掲載されているので印刷配布も可能。

言語：7言語（英・仏・西・ア・中・露・日）

5. Japan Fact Sheet



概要：日本の政治、経済、社会、文化等46項目について百科辞典的に紹介。PDF形式なので印刷配布も可能。

言語：5言語（英・仏・西・中・韓）

6. Japan Links



概要：日本関連情報を英語で発信しているウェブサイトのリンク集。

言語：英語のみ

ジャパン・ハウスの創設 【平成29年度予算案：3,178百万円の内数（4,223百万円の内数）】

ジャパン・ハウスの目的：これまで必ずしも日本に関心がなかった人々を含む幅広い層を惹きつけ、親日派・知日派の裾野を一層拡大すること。

JH運営委員会（現地）

現地有識者

有力国会議員、元閣僚、現地有力企業代表、文化人、メディア関係者、各地日本商工会議所会頭、日本関連機関代表等

事業計画立案



全体方針



意見報告



外務省

東京事務局

総合
プロデューサー

課室長級
関係府省庁・
機関
連絡調整
会議

有識者
諮問会議

ジャパン・ハウス

JH事務局

名誉館長
「顔」となる
地域の名士等

館長/事務局長
マネジメントを担当

企画局長
現地の
専門家

国際交流基金

JNTO



セミナールーム



展示スペース



カフェ・レストラン



マルチメディア
スペース



ショップ

在外公館文化事業費【平成29年度予算案：258百万円の内数（309百万円の内数）】

事業概要・目的

概要と目的

在外公館が、管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を図ることを目的として、外交活動の一環として主催（共催）する日本文化の紹介事業を実施するための経費

【経済財政運営と改革の基本方針2016】

（第2章成長と分配の好循環の実現 2. 成長戦略の加速等）

（2）文化芸術立国・スポーツ立国：文化芸術立国に向けた新たな政策ニーズへの対応に必要な機能強化等を通じ、コンテンツやデザイン等を含めた文化芸術資源を一層活用して地域や経済の活性化を図るため、（中略）**魅力ある日本文化の発信**、文化財の保存・継承、メディア芸術等の振興を進める。

（3）在外公館等の活用や民間主導による国内拠点構築等を通じ、日本食・日本産酒類、コンテンツ等の輸出や文化の創造・対外発信などクールジャパン戦略を推進し、輸出・観光を促進する（以下略）。

【日本再興戦略2016】

日本文化の対外発信の強化により、文化芸術資源をもとにした経済波及効果を拡大する。

（4. 観光立国の実現、5-2 文化芸術資源を活用した経済活性化）

開始時期 / 5年以上実施する理由

毎年度、在外公館が管轄地域において文化事業を実施するための基本的経費である。

過去の指摘事項

- ・平成22年行政事業レビュー「一部改善」
- ・平成23年度政策提言型事業仕分け「外交・外交戦略における在外公館の役割」「一部改善」
- ・平成25年秋の行政事業レビュー「戦略をもとにした具体的な目標等、適切な成果指標の設定、国際交流基金の文化交流事業との役割分担」

資金の流れ



事業イメージ・具体例

在外公館は、管轄地域における対日理解促進や新たな親日層の獲得を図るため、現地のニーズを踏まえ、映画会、音楽会、生活文化（和食文化、華道、茶道等デモンストレーション）、スポーツ（柔道・空手等武道デモンストレーション）、ポップカルチャー（漫画、アニメ、ファッション）、日本語（作文コンクール、日本語弁論大会）等多様な事業を実施。平成27年度は約2,300件実施。



「ジャパン祭り」（英国）

毎年、ロンドンのトラファルガー広場では、市民参加型の総合的な日本文化事業「ジャパン祭り」が開催されており、現地在留邦人等と連携し、オール・ジャパンで日本文化を発信。（平成27年9月）



「日本由来の武道紹介」（エジプト）

安倍総理エジプト訪問時に発表された日・エジプト共同声明において「武道を含むスポーツ交流の強化」とうたわれていることを受け、現地で活動する複数の武道団体と協力し、レク・デモを実施。（平成27年11月）

期待される効果

在外公館文化事業の実施により、様々なレベルにおける外交上の人脈の形成・強化、現地の対日理解の促進と新たな親日層の獲得という効果が期待できる。また、在外公館が関与することで、現地在留邦人や日本関係機関、日本企業と一体となったオールジャパンでの事業も可能となる。

平成27年度の成果を例示すれば、英国で実施した「ジャパン祭り」（上記）では、現地実行委員会と協力して事業を実施した結果、任国の閣僚、国会議員等の出席も得て、現地における日本のプレゼンスを示すことができた。また、中国瀋陽で実施した「日本酒と日本の食文化講演会」では、多数の日本側自治体や民間事業者と協力し、専門家による日本酒文化の説明・試飲会を実施し、21名の現地地方政府関係者を始め、大学・研究機関関係者等との間の人脈構築、対日理解の促進、親日感の醸成につなげることができた。

国際交流基金事業【平成29年度予算案：12,735百万円の内数（12,949百万円の内数）】

平成29年度国際交流基金運営費交付金により、以下のような事業を実施予定。

1. 海外における日本語教育の推進

世界各国・地域の日本語教育の状況、学習者の目的や関心を考慮しながら、日本語教育機関への支援、日本語専門家の派遣、海外事務所などにおける日本語教育セミナー・講座、各国日本語教師・学習者の訪日研修、教材の開発などの事業を実施する。

29年度要望枠：『日本語教育の拠点拡充』
（56,154千円：さくらネットワークを285機関から292機関へ7機関拡充）
各国・地域の日本語教育の要となる機関の育成と当該機関を核とした現地日本語教員育成に対する支援の強化

日本語教育支援プロジェクトの例

毎年、中央アジア各国の日本語学習者が参加して実施される「中央アジア日本語弁論大会」。国際交流基金が実施経費の一部を助成。



日本語専門家の派遣の例

ケルン日本文化会館での授業風景。



2. 文化芸術交流

多様で豊かな日本の文化芸術を、公演・実演・ワークショップ、展覧会、映画・テレビ、翻訳・出版、講演・対話等の形で世界各地に紹介する。また、文化・芸術分野での国際貢献、ネットワーク構築のため、国を越えた専門家同士の間での共同制作・共同作業・交流事業も実施する。

29年度要望枠：『中国における日本映画振興事業』（89,618千円：新規）
中国における日本映画祭及び日本における中国映画祭の開催

展示事業の例

北斎展

『北斎漫画』の出版200周年を記念し、パリのグラン・パレ国立ギャラリーで大規模な北斎展を開催。



舞台公演事業の例

日韓国際共同制作『半神』

脚本・演出 野田秀樹氏による演劇『半神』をソウルと東京で上演。日韓両国の演劇人たちの共同制作により、感動的な舞台を創り上げた。



3. 日本研究・知的交流 親日派・知日派の育成

海外での日本研究を支援し、その振興を図ることで、世界の各国で人々により日本が深く理解されることを目指し、世界各地の日本研究の拠点機関への支援、日本研究者への支援（フェローシップ供与）などを行う。また、多層的・多角的な相互理解を目指し、海外と共通の関心事項や課題についてのシンポジウム開催、人的交流などの知的交流事業を実施する。

29年度要望枠：『現代日本理解特別プログラム』
（29,454千円：支援対象を7機関から8機関へ1機関拡充）
主要国の日本研究機関等における親日派・知日派育成のための機関支援

日本研究支援事業の例

北京日本学研究中心、
北京大学現代日本研究中心（中国）
中国における日本語・日本研究、日本との交流に携わる人材の養成を目的として昭和60年に開設。



知的交流事業の例

サマー・インスティテュート2015

東南アジア6か国、米国の日本研究者と、日本の人文社会科学系の研究者が参加し、講義、パネルディスカッション、関連機関訪問、比叻山延暦寺での文化体験等を通じて新たなネットワークを構築した。



4. その他（海外拠点事業、情報提供事業）

各海外拠点が主導する事業や広報、図書館の運営等日本の情報提供事業等を行う。また、JFICの運営やウェブサイト、メールマガジンの発行などを通じ、国際交流に関する内外情報を提供するほか、国際交流基金賞、地球市民賞等の顕彰事業、市民レベルでの国際交流活動支援などを行なう。

顕彰事業の例

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に長年にわたり特に顕著な貢献があり、引き続き活動が期待される個人又は団体を顕彰している。



情報提供事業の例

ライブラリー運営

国際交流基金の実施事業に関する資料や、国際文化交流・文化政策に関する図書資料、外国語で書かれた日本を紹介する図書・映像資料などを所蔵し、一般に開放している。



日本国際漫画賞



経緯

平成19年、麻生外務大臣（当時）が創設。

概要

海外での漫画普及に貢献する漫画作家を顕彰。
平成28年度は第10回目。

実施方法

応募作品から最優秀賞1作品、優秀賞3作品を
審査委員会が選定し、式典において表彰。



第9回授賞式で最優秀賞の賞状を受け取るイスラエルの受賞者

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
国・地域数	26	46	55	39	30	38	53	46	46	55
作品数	146	368	303	189	145	245	256	316	259	296

対日理解促進交流プログラム 【平成29年度予算案：2,761百万円（3,327百万円）】

目的

日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充する。

対日理解の促進 ・ 親日派・知日派の発掘

対外発信の強化

外交基盤の拡充

概要

対象者： 招へい： 高校生～社会人等 / 派遣： 高校生～大学院生等

期間： 10日間程度

対象地域： 招へい： アジア大洋州、北米、欧州、中南米 / 派遣： アジア大洋州、北米、中南米

地域別名称： JENESYS2017（アジア大洋州）、KAKEHASHI Project（北米）

MIRAI Program（欧州）、JUNTOS!!（中南米）

規模： 約27.6億円、約5,600人（平成29年度当初予算）

事業の実施形態

日本政府（事業方針に沿って推進）
（拠出金支出）

国際機関等（事業の実施団体を選定・委託）
（拠出金管理）

実施団体等
（プログラムの企画・実施）

外国報道関係者招へい 【平成29年度予算案：56百万円の内数（59百万円の内数）】

日本特集番組制作支援事業 【平成29年度予算案：47百万円の内数（16百万円の内数）】

外国報道関係者（ペン記者）を個別又はグループで日本に招へいし、現地視察、インタビュー、政府関係者によるブリーフィング等の取材機会を提供。

外国のテレビチームを日本に招へいし、当該国の関心や日本とのつながりを踏まえた日本特集番組の制作を支援。

➤ 外国報道関係者招へい（平成29年度予算56,390千円）

平成27年度：計42名の記者を招へい。合計173件の記事が掲載された。

平成28年度：計52名の記者を招へい。

➤ 日本特集番組制作支援事業（平成29年度予算46,877千円）

平成27年度：サウジアラビア及びブラジルのテレビ局チームを招へい。合計約2.5時間の日本特集番組を放送。

平成28年度：2カ国2チームを招へい予定。

報道・取材例

（インドネシア、テンポ紙記者）
東京駅プラットフォームでの
新幹線取材



（サウジチャンネル2）
日本の着物生地を用いてサウジの
伝統衣装アバヤを制作する
ファッションデザイナーを取材



（スイス、ノイエ・チュルヒャー・
ツァイトゥンク紙記者）
伊場仙での伝統的な柄に現代の
テイストを加えた団扇の取材



（モンゴル、Channel 25）
第8回国際漫画賞受賞式にて
モンゴル人優勝者を取材



外務省・在外公館

外務省の強み（人脈、情報等）を活用するとともに地方自治体（被災地含む）と連携し、政府、政財界要人等への直接の働きかけ。
 【地域の情報発信支援】

- 政府、地方自治体等によるプレゼン説明
- 地方自治体、団体、専門家によるブースPR
- 地域の観光資源、地場産品PR
- ワークショップ
- 人脈構築・マッチング

外国政府

政財界要人

メディア、有識者

青少年、市民等

事業実施

- 地方の人の流れの創出と拡充。
- 地域交流の促進と重層的な対日理解の深化。
- 地方と連携した力強い外交の展開。

複数の自治体と連携

地方自治体

アウトバウンド・インバウンドを活性化

- 地方の県産品・地場産業の海外展開支援。
- 観光・企業・投資等の誘致。